

50歳以上の男性の方へ

前立腺がん検診を 受けましょう

(名古屋市在住の方はワンコイン(500円)で検診を受けられます。)



前立腺がんは血液検査で早期発見できます。

監修

名古屋市立大学大学院医学研究科 腎・泌尿器科学分野

佐々木 昌一

名古屋市健康福祉局

前立腺がんは 増えている



前立腺がんは中高年の男性に多く見られるがんです。アメリカでは10年以上前から、男性においてもっとも罹患率の高いがんとなっています。

日本でも最近患者数が急激に増えており、臓器別がん死亡数の増加比をみると、前立腺がんでは、1995年の死亡数を1とすると、2015年の予測値は約3倍と予想されており、増加率はトップになっています。

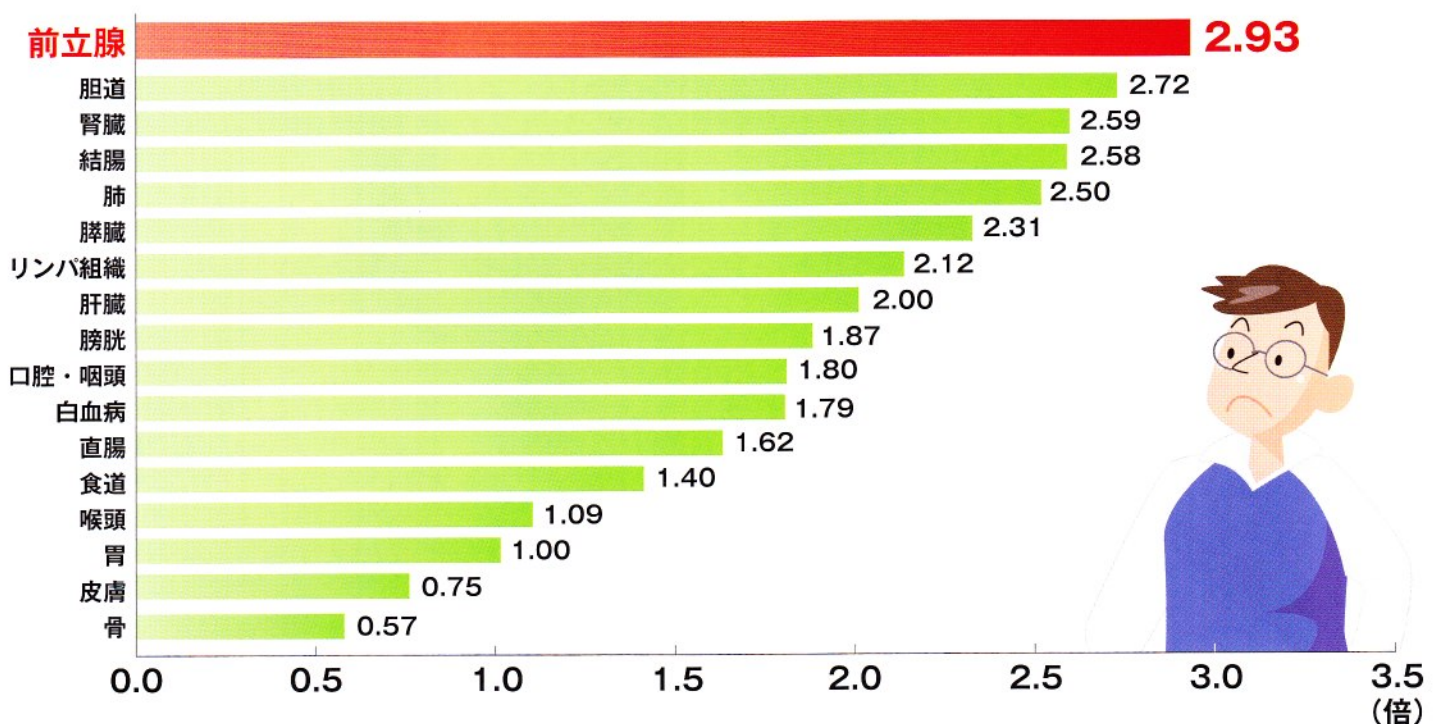
参考：前立腺がんの死亡数 1995年5,399人→2007年9,786人(人口動態統計より)

幸いに、前立腺がんは血液検査による早期発見が可能です。50歳以上の男性や、血縁者に前立腺がんの人がいる男性は、定期的に検診を受けることが大切です。

増加率トップ!2015年には1995年の3倍に

臓器別がん死亡数の増加の比較

2015年の予測値と1995年の実測値の比



前立腺のはたらきと 前立腺がん

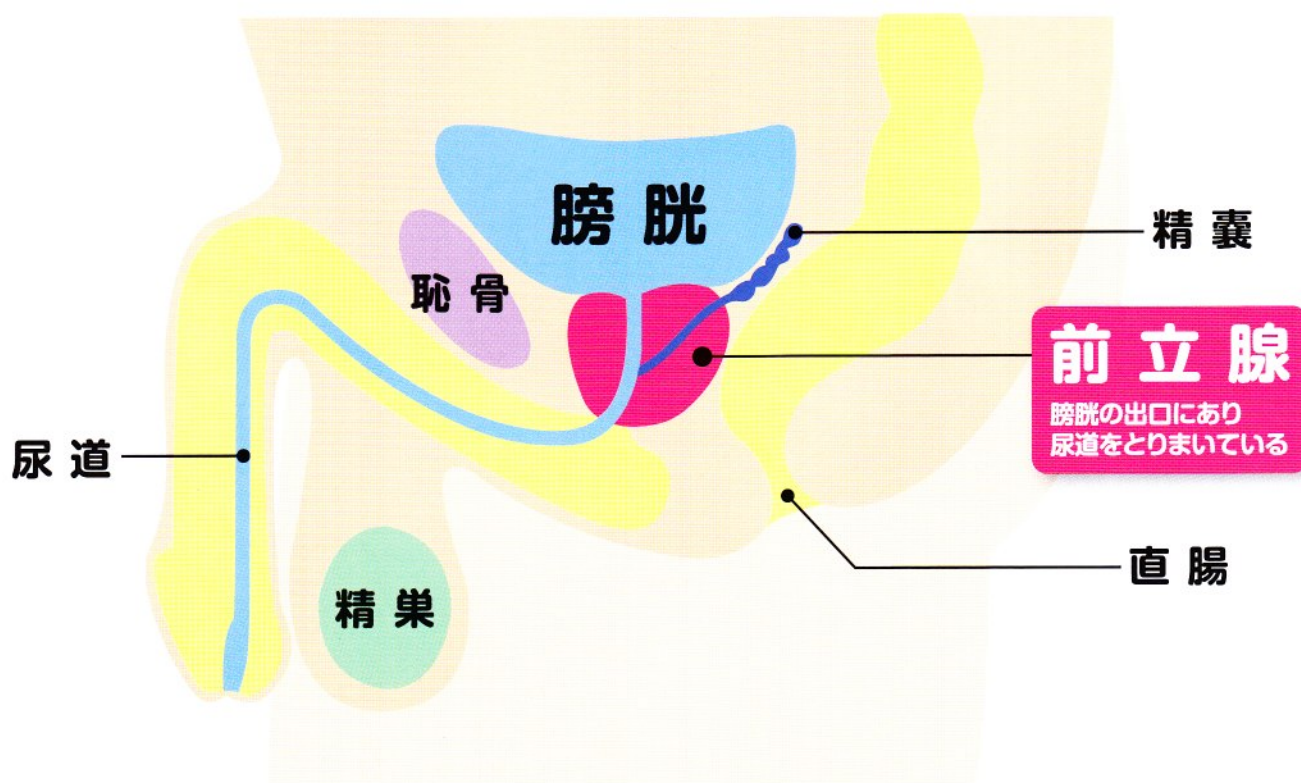
2

前立腺とは、男性の膀胱の下にあり、尿道を取り囲むように存在するクルミ大の臓器で、精液の一部である前立腺液を分泌し、精子の運動機能を助ける働きをしています。男性ホルモンによって大きくなるため、中高年になると尿道が圧迫され、おしっこの勢いが悪くなる前立腺肥大症という良性疾患が発症する場合があります。

一方、前立腺がんは多くは尿道から離れた前立腺の表面部分にできます。進行は緩やかなことが多く、進行すると「尿の出具合が悪い」、「血尿がでる」などの排尿に関する症状が現れます。さらに進行すると、骨に転移することが多く、「腰が痛い」「ちょっとしたことで骨折した(病的骨折)」などの症状で見つかる場合があります。しかし初期には自覚症状もほとんどないため、早期発見には検診が必要となります。

前立腺の位置

男性の膀胱の下にあるクルミ大の器官



PSA(前立腺特異抗原)とは?

がんの進行とともに増加する生体内の物質のことを腫瘍マーカーと言います。PSA(Prostatic Specific Antigen; 前立腺特異抗原)は前立腺から出されるたんぱく質の一種で前立腺がんの腫瘍マーカーです。正常人の血液中にも存在しますが、前立腺がんが発生すると値が上昇します。しかし良性疾患である前立腺肥大症や、前立腺の炎症などでも上昇するため、PSA値が基準値を上回った場合は精密検査が必要になります。

ただし、PSA値が高ければ必ずがんであるというわけではありませんし、逆にPSA値が正常の場合でも前立腺がんが発生していないということにもなりません。あくまでも、前立腺がんを発見するきっかけとなる一つの指標です。

PSA値 判定の目安

4ng/mL以下

正常

定期的にPSA検査をして経過を見守ります

4ng/mLを超える～10ng/mL以下

グレーゾーン

がん以外に前立腺肥大症など、前立腺の他の病気が含まれている可能性があります

10ng/mLを超える

がんが疑われます

高くなるほどがんの可能性が高くなります

PSA値が高かったら？

4

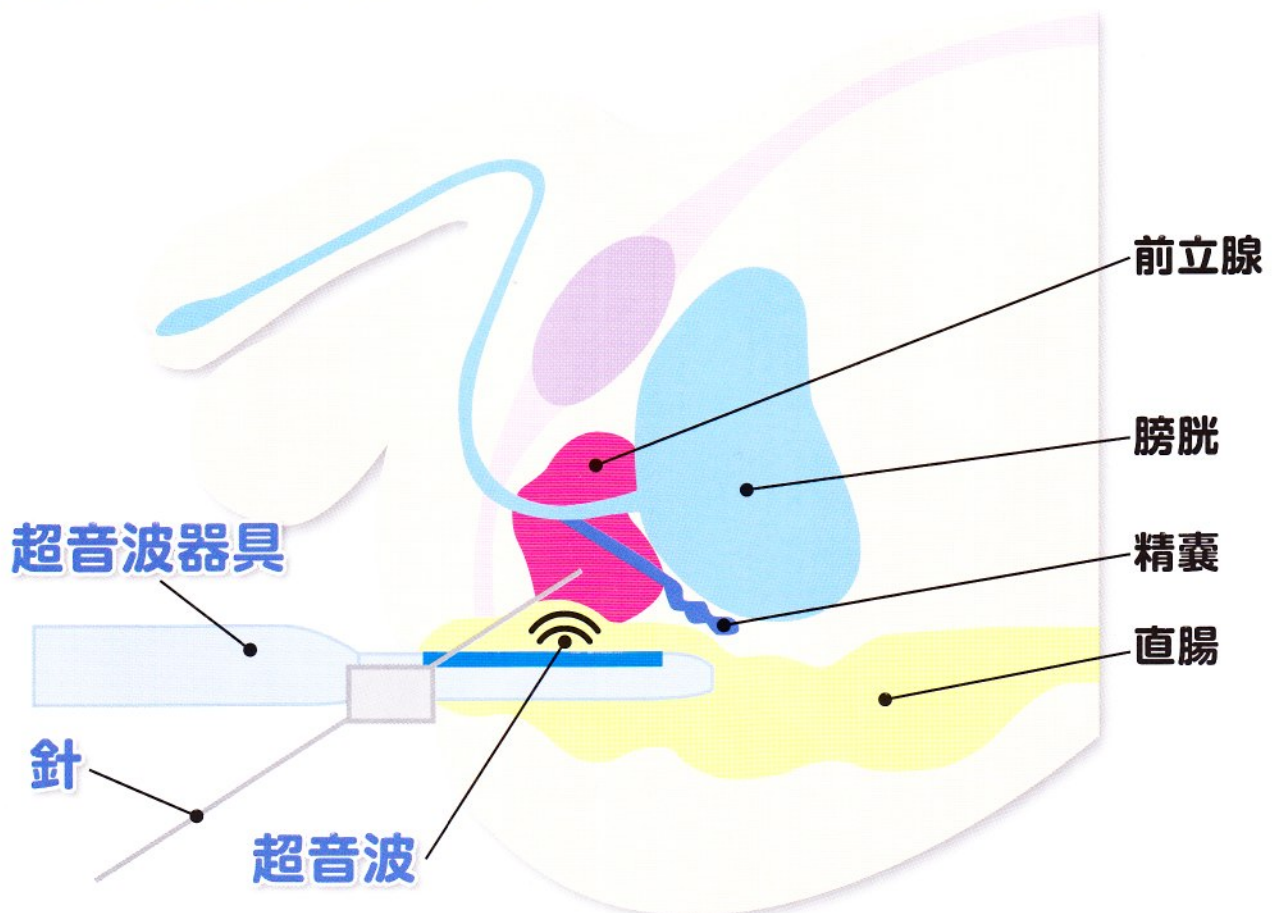
PSA値が4ng/mlを超える場合には、専門医による精密検査をお勧めします。

精密検査では、PSAの再検や検尿、超音波検査(エコー)、直腸診などを行います。PSA値は前立腺肥大症や前立腺の炎症などでも上昇するため、まずこれらの疾患の有無について検査します。これらの疾患でないと確認された場合は、前立腺針生検を行います。これは細い針で前立腺組織を数箇所採取し、顕微鏡でがん細胞の有無を調べます(病理組織検査)。痛みはほとんどなく、通常1,2泊の入院検査で行われます。

*精密検査は、保険診療となるため別途費用がかかります。

前立腺針生検

前立腺針生検では、直腸から超音波を当てながら前立腺の正確な位置を把握し、細い針で組織を採取します。



前立腺がんと診断されたら、 どんな治療がありますか？

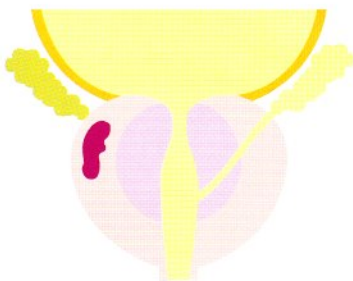
がんと診断されたら、CTやMRIなどの画像診断で、がんの浸潤（周囲組織への広がり）や転移（がんが他臓器へ広がっている状態）の有無を調べます。また、病理組織検査から得られたがんの悪性度やPSA値、さらには患者さんの年齢や全身状態をも参考に、治療方法を選択します。

がんが前立腺の内部にとどまっていたり、他の臓器に転移していない場合には、手術療法、放射線療法、ホルモン療法（男性ホルモンを遮断する治療）といった様々な選択肢がありますし、きわめて初期の場合には治療をせず経過を観察することも可能です。前立腺周囲への浸潤がある場合には、放射線療法、ホルモン療法のどちらかまたは両方を行うことが一般的です。骨など他臓器への転移がある場合には、ホルモン療法を第一に選択することになります。

前立腺がんは一般的に進行がゆっくりで、たとえ転移が認められてもホルモン剤を中心とした薬物治療が有効です。専門医による診断をきちんと受け、適切な治療を行ってまいりましょう。

前立腺がんの治療法

早期には**局所療法**、進行すると**ホルモン療法**が主体



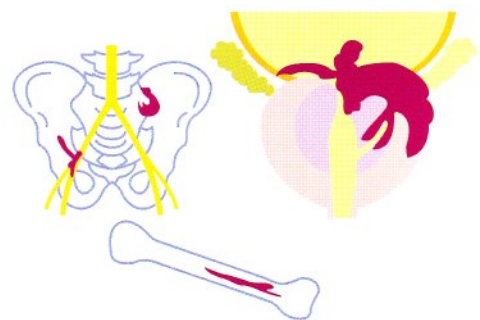
限局がん

- ・手術療法
- ・放射線治療
- ・ホルモン療法
- ・無治療経過観察



局所浸潤がん

- ・ホルモン療法
- ・放射線治療



転移がん・周囲浸潤がん

ホルモン療法